

九州伝産の旅

vol.1 1

2022 年

博多人形 中村人形 ＜中村信喬氏＞

1957 福岡県生まれ

1979 九州産業大学芸術学部
美術学科 彫刻専攻（木彫）卒業
京都にて人形修行

1983 人形作家 林駒夫(重要
無形文化財保持者)、陶芸家(故)
村田陶苑、能面師 北沢一念 に師
事

2006 福岡県文化賞受賞（創造
部門）、2013 福岡市文化賞受
賞ほか、数々の賞を受賞

2011 ローマ法王 拝謁・作品献上
（伊東マンショ像）

2016 KITTE 博多「エンジェルポ
スト」制作

2017 福岡空港国際線 1F ロビー
「第 99 回ライオンズクラブ国際大会
モニュメント、希望の獅子」制作

日本工芸会理事

日本工芸会人形部副幹事長、副
部会長

日本工芸会西部支部副幹事長

九州産業大学美術館客員教授

博多人形 中村人形

代々受け継がれてきた「本質的なもの」を大切に、
人々の願いを人形作りに込める

福岡市桜坂の閑静な住宅街に工房を構える中村人形さん。インパクトのあるロゴと美しい
書が描かれた暖簾がとても印象的です。博多祇園山笠の人形作りのほか、KITTE 博多
「エンジェルポスト」をはじめとした野外モニュメントを数多く手掛けるなど、「博多人形」の枠
を越えて活躍されている三代目中村信喬さんにお話を伺いました。



中村人形 三代目 中村信喬さん



中村信喬さんの作品「くんち大漁」



エヴァンゲリオンの博多人形

■ 博多人形の歴史・特徴

博多人形は美人や歌舞伎、能、童物、雛、五月人形、節句物、縁起物等の題材が用いられる素焼き人形で、素焼に着色する落ち着いた美しさときめ細かい細工が特徴です。1600年黒田長政の筑前入国に伴って多くの職人が集められ、その職人たちから素焼き人形が生まれ、現在の伝統工芸の礎がつくられたといわれています。江戸時代の後半に正木宗七（焼）、中ノ子吉兵衛、白水武平といった名工たちが活躍して業界は活況を呈し、全国に流通するようになりました。明治になりパリなど国際的な博覧会で高い評価を受け、日本を代表する人形として「博多人形」の名で知られるようになり海外へも輸出されるようになりました。現在、博多の街角で人々は人形師の鼓動に出逢う事ができます。博多の街のあらゆる所でレリーフや催事、施設などが存在します。

※博多人形商工業協同組合 HP より引用・編集。

Q.「中村人形」の特徴を教えてください。

中村人形の特徴は「自由」なところですね。先代と同じものを作らないこと、常に新しいものを生み出すことを大切にしています。ずっと同じものを受け継いでいくのは「伝承」で、技術や技法に新しい価値を加えていくのが「伝統」です。私の祖父の言葉ですが、「お粥食ってでも、良いものをつくれ」というのが中村家の家訓です。「良いもの」を作るためには、自分で枠を決めずに「自由」であるべきだと思います。他の工芸品も同じで、例えば焼き物だって、お椀にこだわる必要はない。私個人も、単なる人形師というよりは、Public art の制作含め、色んなことをやっています。例えば KITTE 博多のハート型の「エンジェルポスト」は博多人形の造形力を活かしたのですが、土の人形では外に置くことができませんから、実はロケットと同じような構造で作っているんですよ。



Public art 石馬/九州芸文館



エンジェルポスト/KITTE 博多

Q.伝統的工芸品の産地によっては需要の減少等が課題となっていますが、どのように感じていらっしゃいますか？

業界内で閉鎖的になっていては未来はないと思います。産業の発展のためには、やはりもっと「自由」であるべきだと思いますね。中村人形はありがたいことに毎日てんてこまいで生産が追いつかない状況です。そのためにはやはり「良いもの」を作るしかないと思っています。流行りものは必ず廃れます。通常、企業等では3～5年で計画を立てることが多いと思いますが、中村人形は常に50～100年スパンで考えています。人に合わせるのは良いですが、人に媚びたり、「売りたい」と欲を出すと長く続きません。もっと「本質的なもの」を追求するべきで、品格や立ち振る舞い、行動など、つくりての人間性や精神性が重要です。我々のような仕事に営業マンはいませんから、作品の良さに加えて人間性を問われるんですね。特に人形は、人の形をしているので、人間性が出てしまう。自分のアートを押しつけるのではなく、人に寄り添い、夢や希望を与えるものを作り続けることだと思います。人形に願いを込めるのが人形師の仕事です。特にコロナや災害で今はみなさん心がすさんでいますよね。そういったときこそ、やすらぎのようなものを求めるのではないのでしょうか。



photo: Kazuo Matsumoto



photo: Kazuo Matsumoto

印象的な作品の数々

Q.博多祇園山笠の制作にも携わられているんですね。

我が家では子供の頃から博多祇園山笠に参加し、今は親子で山笠の制作に関わっています。山笠は 800 年近く続いている神事ですから、変なことをしたらバチが当たります。人々の祈りが込められたお祭りですから、「まちのために作っているんだ」という気持ちを常に大切にしています。そこに「自我」はいりません。あくまで「他者のために」です。



Q.息子さんの弘峰さんも人形師としてご活躍されていますね。

息子には基本的に自由にやらせていて、あまり口出しはしないようにしています。小さい頃から自分のためではなく、人のために生きることを教えてきました。1～2歳の頃から、例えば大好きなお菓子やおもちゃを息子が持っていたら、あえて「ちょうだい」と言うんです。最初はもちろん嫌がりますが、頻繁にやっていると人にあげることが喜びになって、あげられるようになるんですね。そうすると人の手助けができるようになります。また、息子は東京藝術大学大学院を出ていますが、このままではブライドだけ高い人間になると思ったので、卒業後、有田の人間国宝である故十四代酒井田柿右衛門先生と太宰府天満宮第39代宮司西高辻信良氏（現最高顧問）の元に1年間無給の修行に出しました。草むしりや梅の木の剪定などの仕事を一日中やるわけですが、嫌な顔せず一生懸命やったようです。そういう姿を見て下心がないのも相手に伝わりますから、自然と周りに人が寄ってきて、応援してくれるようになるんですね。家族の話で言えば、今、中村家代々の歴史を紐解く作業を行っているんですが、ご先祖様がこんなことで苦労したんだとか、こんな目に遭ったんだというのを知ると、今の自分がこうなった理由が分かるんですね。「今自分がここにいることの意味」を知ること大事なことだと思っています。

Q.人材育成に力を入れていらっしゃる理由は？

九州産業大学や博多繊維デベロップメントカレッジの講師のほか、展示会の審査等も行っています。人に夢や希望を与えられる人を一人でも多く生み出したいという思いがあります。技術や技法は長くやっていれば誰でもできるようになります。でも心を動かす作品を作れるかどうかは別で、人材育成に関してはそこに重点を置いています。

Q.最近の取組は？

昨年度（令和3年度）は太宰府天満宮で企画展「中村人形と太宰府天満宮」を開催しました。また、今年度は九州産業大学美術館でも展示会を開催しています。いずれもこれまでの個展とは違い、公共の場での展示会でしたので、多くの方に中村人形を知っていただく機会になりました。ご先祖様にも喜んでもらえたかなと思いますね。



「中村人形と太宰府天満宮」
四代目の弘峰さんと

profile

事業者名

株式会社中村人形

場所

福岡県福岡市中央区桜坂

1-10-46

電話

092-751-9672

Web サイト

<https://www.nakamura-ningyo.com/>



Q.信喬さんのモットーを教えてください。

「ニュートラルな受信体」でいることを心がけています。何かに突き動かされる、あるいは何かが導いてくれるのを感じる力、例えば本を読んで、木を見て、何かに気づき、感動する力を持つことを大切にしています。簡単に言えば「純粹で素直な心」ですね。何かが邪魔しているとできませんから、なかなか難しいですが、年をとってもそういう気持ちを持ち続けたいですね。



制作途中の鬼

Q.今後の展開は？

今も展示会に向けて、大型のモニュメントや新たな歴史上の人物の制作に取り組んでいます。今後も常に新しいものを生み出していきたいですね。また、現在息子とともに中村人形のギャラリーの整備を進めています。デジタル技術も導入しつつ、拠点を整備することで様々なアーティストが集う場にもなればと思っています。

Q.若い職人さんへメッセージをお願いします。

「手の届かないと思うところに挑戦する」という気持ちを大事にして欲しいです。そういう気持ちを持っていれば必ずそういうところにつながります。自分で「これだ」と杓を決めてしまうとそこから下降線をたどってしまいます。常に新しい血と知恵とノウハウを入れていかないとダメです。人に夢や希望を与える仕事ですから、自分自身も夢と希望を追い続けて欲しいですね。



福の天使/福岡クリスマスマーケット

Q.博多人形の魅力、福岡市の魅力を教えてください。

博多人形の魅力は時代に合わせて色々なものを作り続けていけることですね。福岡の魅力はポテンシャルが高いところです。食べ物もおいしく、歴史もあり、アジアに近く、気候も温暖で、災害も少ない。海・山も近く、まちは元気で魅力に溢れています。本当に良い場所にいるな、と感じています。鎌倉時代、中国の貿易商人「謝国名（しゃこくめい）」は博多を国際貿易都市にしましたが、風水的にも福岡は良い場所なんですよ。

個展の準備等でお忙しい中、とても丁寧にかつ気さくに取材に対応していただいた中村信喬さん。「人に夢や希望を与えられる人を一人でも多く生み出したい」とう懐の深さが取材を通して伝わってきました。「良いもの」を作るための極意、他者貢献の精神性、自分自身との向き合い方、子育て術等々、工芸品に携わる方のみならず、あらゆる職業の方が働く上で、また生きる上で参考となるヒントが詰まっていました。